



## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE\_Sapporo2016v1.0 使用評価ソフト: CASBEE札幌2016 (ver.1.3)

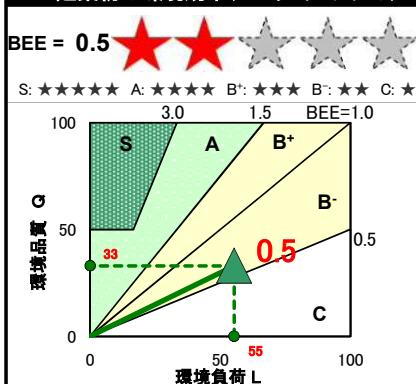
## 1-1 建物概要

建物名称	北海道ガス株式会社 室内野球練習場	階数	地上2階
建設地	北海道 札幌市 厚別区	構造	S造
用途地域	準工業地域 法22条区域	平均居住人員	30 人
		年間使用時間	2,000 時間/年(想定値)
建物用途	集会所,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年11月 予定	評価の実施日	2018年4月11日
敷地面積	3,784 m <sup>2</sup>	作成者	
建築面積	2,097 m <sup>2</sup>	確認日	
延床面積	2,381 m <sup>2</sup>	確認者	

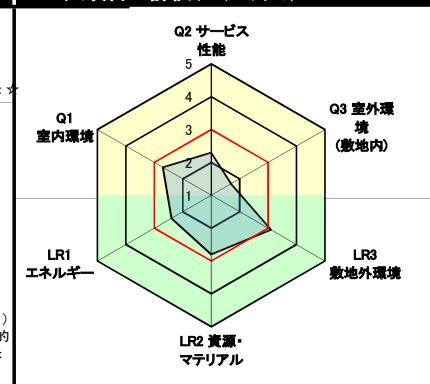
## 1-2 外観



## 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&amp;チャート)

2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

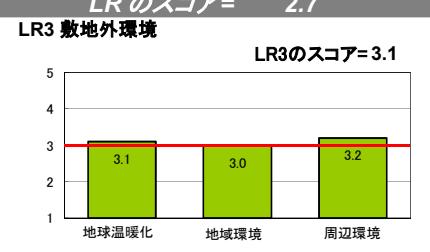
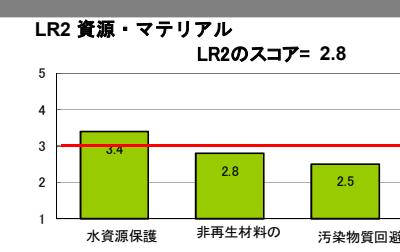
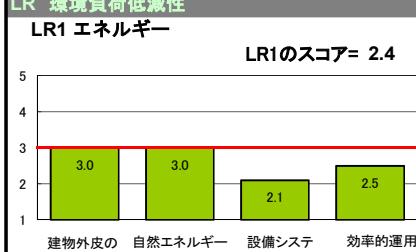
## 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



## 2-4 中項目の評価(バーチャート)



## LR 環境負荷低減性



## 3 設計上の配慮事項

## 総合

敷地を有効利用した建物配置を計画し、既存の車両出入口を利用して近隣環境への安全に配慮する  
寒冷地に対応した断熱計画などを行い、冷暖房負荷の低減に配慮する  
十分な駐車スペースおよび堆雪スペースを確保し、周辺環境に配慮する

## A 省エネルギー

積極的にLED照明を採用し省エネに配慮した

## B 省資源等

乾式工法による分別可能な計画  
節水器具を採用し、水資源の保護に配慮する

## C 緑化

既存施設敷地を含めて、札幌市緑の保全と創出に関する条例を充分クリアしている  
建屋外周部には種子散布の芝を計画している

## D 雪処理

無落雪を原則とし、雪庇防止笠木をパラベットに設けることで落雪時の危険性を低減している。敷地内車路（スロープ）にはロードヒーティング敷設があり、安全性を確保している。  
積雪に考慮し、敷地内に堆雪できるよう十分なスペースを確保している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

CASBEE札幌2016(ver.1.3) 北海道ガス株式会社 室内野球練習場		■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0 ■評価点: CASBEE札幌2016 (ver.1.3)					
スコアシート	実施設計段階	重点評価項目	環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分 評価点	住居・宿泊部分 評価点	全体 重み係数
配慮項目			評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質							2.3
Q1 室内環境				0.40		-	2.7
1 音環境			-	-			-
1.1 室内騒音レベル			-	-			-
1.2 遮音			-	-			-
1. 開口部遮音性能			-	-			-
2 界壁遮音性能							-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)							-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)							-
1.3 吸音			-	-			-
2 溫熱環境			2.3	0.58		-	2.3
2.1 室温制御			3.7	0.50			-
1 室温			5.0	0.38			-
2 外皮性能	省エネ		3.0	0.25			-
3 ゾーン別制御性			3.0	0.38			-
2.2 湿度制御			1.0	0.20			-
2.3 空調方式			1.0	0.30			-
3 光・視環境			-	-			-
3.1 昼光利用			-	-			-
1 昼光率			-	-			-
2 方位別開口							-
3 昼光利用設備	省エネ		-	-			-
3.2 グレア対策							-
1 昼光制御	省エネ						-
2 映り込み対策							-
3.3 照度			-	-			-
3.4 照明制御			-	-			-
4 空気質環境			3.2	0.42		-	3.2
4.1 発生源対策			4.0	0.50			-
1 化学汚染物質			4.0	1.00			-
4.2 換気			3.5	0.30			-
1 換気量			4.0	0.50			-
2 自然換気性能			-	-			-
3 取り入れ外気への配慮			3.0	0.50			-
4.3 運用管理			1.0	0.20			-
1 CO <sub>2</sub> の監視			-	-			-
2 嘸煙の制御			1.0	1.00			-

Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	2.3
1 機能性				1.7	0.40			1.7
1.1 機能性・使いやすさ				1.0	0.40			
1 広さ・収納性								
2 高度情報通信設備対応								
3 バリアフリー計画				1.0	1.00			
1.2 心理性・快適性				1.0	0.30			
1 広さ感・景観 (天井高)								
2 リフレッシュスペース								
3 内装計画				1.0	1.00			
1.3 維持管理				3.5	0.30			
1 維持管理に配慮した設計				3.0	0.50			
2 維持管理用機能の確保		清掃用保管スペースを計画し、専用の洗い場、排水設備も確保している 廃棄物スペースも確保。日常的に調整が必要な機器は、操作が容易な位置とする		4.0	0.50			
2 耐用性・信頼性				2.9	0.30			2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50			
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80			
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数				3.5	0.30			
1 車体材料の耐用年数				3.0	0.20			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	省資源	カラーガルバリウム鋼板 耐用年数30年程度		4.0	0.20			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	省資源	ビニル床シート 耐用年数20年 壁・天井 ボード類 使用		4.0	0.10			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	省資源			3.0	0.10			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	省資源	給水管はステンレス鋼管、排水管硬質塩化ビニル管を採用する 冷媒管は銅管とする		4.0	0.20			
6 主要設備機器の更新必要間隔	省資源			3.0	0.20			
2.4 信頼性				1.8	0.20			
1 空調・換気設備				3.0	0.20			
2 給排水・衛生設備				2.0	0.20			
3 電気設備				1.0	0.20			
4 機械・配管支持方法				1.0	0.20			
5 通信・情報設備				2.0	0.20			

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>2.7</b>	0.30		-	<b>2.7</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>3.0</b>	0.30		-	
1 階高のゆとり						-	
2 空間の形状・自由さ			<b>3.0</b>	1.00		-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>2.0</b>	0.30		-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.0</b>	0.40		-	
1 空調配管の更新性			<b>3.0</b>	0.20		-	
2 給排水管の更新性			<b>3.0</b>	0.20		-	
3 電気配線の更新性			<b>3.0</b>	0.10		-	
4 通信配線の更新性			<b>3.0</b>	0.10		-	
5 設備機器の更新性			<b>3.0</b>	0.20		-	
6 バックアップスペースの確保			<b>3.0</b>	0.20		-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>1.7</b>
1 生物環境の保全と創出	緑化		<b>1.0</b>	0.30		-	<b>1.0</b>
2 まちなみ・景観への配慮	緑化		<b>2.0</b>	0.40		-	<b>2.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>2.0</b>	0.30		-	<b>2.0</b>
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	雪処理		<b>3.0</b>	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	省資源 緑化		<b>1.0</b>	0.50		-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>2.7</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>2.4</b>
1 建物外皮の熱負荷抑制	省エネ		<b>3.0</b>	0.20		-	<b>3.0</b>
2 自然エネルギー利用	省エネ		<b>3.0</b>	0.10		-	<b>3.0</b>
3 設備システムの高効率化	省エネ	[BEI][BEIm] = 0.97	<b>2.1</b>	0.50		-	<b>2.1</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>2.5</b>	0.20		-	<b>2.5</b>
集合住宅以外の評価			<b>2.5</b>	1.00		-	
4.1 モニタリング	省エネ		<b>3.0</b>	0.50		-	
4.2 運用管理体制	省エネ		<b>2.0</b>	0.50		-	
集合住宅の評価						-	
4.1 モニタリング	省エネ					-	
4.2 運用管理体制	省エネ					-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>2.8</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.4</b>	0.20		-	<b>3.4</b>
1.1 節水		節水型便器、擬音を採用する	<b>4.0</b>	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			<b>3.0</b>	0.60		-	
1 雨水利用システム導入の有無			<b>3.0</b>	0.70		-	
2 雜排水等利用システム導入の有無			<b>3.0</b>	0.30		-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>2.8</b>	0.60		-	<b>2.8</b>
2.1 材料使用量の削減	省資源		<b>2.0</b>	0.10		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	省資源		<b>3.0</b>	0.20		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	省資源		<b>3.0</b>	0.20		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	省資源		<b>1.0</b>	0.20		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	省資源		<b>2.0</b>	0.10		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	省資源	軸体と仕上げ材は分別可能、ユニットは再利用可能とする	<b>5.0</b>	0.20		-	

<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>2.5</b>	0.20		-	<b>2.5</b>
<b>3.1 有害物質を含まない材料の使用</b>			<b>3.0</b>	0.30		-	
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>			<b>2.3</b>	0.70		-	
1 消火剤	<b>省資源</b>		<b>2.0</b>	0.33		-	
2 発泡剤(断熱材等)	<b>省資源</b>		<b>3.0</b>	0.33		-	
3 冷媒	<b>省資源</b>		<b>2.0</b>	0.33		-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	0.30	-	-	<b>3.1</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>	<b>省資源</b>	ライフサイクルCO2排出率が、一般的な建物と同等	<b>3.1</b>	0.33		-	<b>3.1</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.33		-	<b>3.0</b>
<b>2.1 大気汚染防止</b>	<b>省資源</b>		<b>3.0</b>	0.25		-	
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>	<b>省資源 悪化 対処</b>		<b>3.0</b>	0.50		-	
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>			<b>3.2</b>	0.25		-	
1 雨水排水負荷低減	<b>省資源</b>	必要対策量以上の流出抑制を行っている	<b>4.0</b>	0.25		-	
2 污水処理負荷抑制			<b>3.0</b>	0.25		-	
3 交通負荷抑制			<b>3.0</b>	0.25		-	
4 廃棄物処理負荷抑制	<b>省資源 対処</b>		<b>3.0</b>	0.25		-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.2</b>	0.33		-	<b>3.2</b>
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>			<b>3.0</b>	0.40		-	
1 騒音			<b>3.0</b>	1.00		-	
2 振動			-	-		-	
3 悪臭			-	-		-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制</b>			<b>3.0</b>	0.40		-	
1 風害の抑制			<b>3.0</b>	0.70		-	
2 砂塵の抑制			<b>3.0</b>	-			
3 日照阻害の抑制			<b>3.0</b>	0.30		-	
<b>3.3 光害の抑制</b>			<b>4.4</b>	0.20		-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		ガイドラインのチェックリストおよび配慮事項の項目を過半満たしている	<b>5.0</b>	0.70		-	
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			<b>3.0</b>	0.30		-	

# CASBEE札幌



## 重点項目 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE\_Sapporo2016v1.0

■使用評価ソフト: CASBEE札幌2016(ver.1.3)

### 1 建物概要

建物名称	北海道ガス株式会社 室内野球練習場	BEE	0.5	BEEランク	B-
建物用途	集会所,				
延床面積	2,381.4 m <sup>2</sup>				

### 2 重点項目への取り組み



### 3. 重点項目のCASBEEスコア

A 省エネルギー ( 最高点 21.6 最低点 6.1 )				合計	10.7点 / 21.6点
Q1 溫熱環境	スコア	0.9 / 1.6	LR1 建物外皮の熱負荷抑制	スコア	2.4 / 4.0
Q1 光・視環境	スコア	0.0 / 0.0	LR1 自然エネルギー利用	スコア	1.2 / 2.0
			LR1 設備システムの高効率化	スコア	4.2 / 10.0
			LR1 効率的運用	スコア	2.0 / 4.0
B 省資源等 ( 最高点 23.6 最低点 7.6 )				合計	13.1点 / 23.6点
Q2 耐用性・信頼性	スコア	0.8 / 1.1	LR2 非再生性資源の使用量削減	スコア	5.0 / 9.0
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	0.5 / 2.3	LR2 汚染物質含有材料の使用回避	スコア	1.0 / 1.8
			LR3 地球温暖化への配慮	スコア	3.1 / 5.0
			LR3 地域環境への配慮	スコア	2.7 / 4.4
C 緑化 ( 最高点 15.3 最低点 3.1 )				合計	5.3点 / 15.3点
Q3 生物環境の保全と創出	スコア	0.9 / 4.5	LR3 地域環境への配慮	スコア	1.5 / 2.5
Q3 まちなみ・景観への配慮	スコア	2.4 / 6.0			
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	0.5 / 2.3			
D 雪処理 ( 最高点 3.0 最低点 0 )				合計	1.0点 / 3.0点
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	0.0 / 1.0	LR3 地域環境への配慮	スコア	1.0 / 2.0

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■重点項目の最高点は、各評価項目でレベル5で評価された場合の点数

■重点項目の最低点は、各評価項目でレベル1で評価された場合の点数